

はじめに

多摩森林科学園の面積は、56ヘクタールあり、代々木公園や多摩動物公園に匹敵する広さがあります。この森林は、明治時代には御料林(皇室の森林)でした。大正10年(1921年)に前身の帝室林野管理局林業試験場となってから、試験研究のための林となりましたが、一部には自然林も残され、動植物にとって貴重な生活の場となっています。

多摩森林科学園には7ヘクタールの樹木園があります。ここには昭和の初期から、国内外の樹木約500種、6,000本が植えられています。

樹木園は第1～第3に分かれています。古くからの樹木園である第1樹木園は、国内外の針葉樹を中心に見ることができます。サクラ保存林への連絡経路にもなっている第2樹木園は、落葉樹も多く、四季の変化が楽しめます。第3樹木園はもともと林業用樹木の試験林だったため、外国産の樹木が多く、まとまって植栽されています。このガイドは、第1、第2樹木園の樹木から、テーマ別に選んだ樹木を、現地に設置された解説板を見ながらまわるルートマップです。

園内では、火の使用・アルコール類の飲酒・ペットの持ち込み・動植物の採取は禁止になっています。また、ゴミは持ち帰り、タバコは森の科学館横の喫煙所にてお願いいたします。

多摩森林科学園入園案内

入園時間：

午前9時30分～午後3時30分(閉門は午後4時)
ただし、4月は午前9時に開園します。

入園料：

4月 / 大人400円 子供150円
5月～3月 / 大人300円 子供 50円

休園日：

毎週月曜日(月曜日が休日の場合はその翌日)
12月26日～1月15日
ただし、3月・4月は無休です。
(臨時休園の場合があります。ホームページなどでご確認下さい。)



独立行政法人 森林総合研究所 多摩森林科学園

〒193-0843 東京都八王子市廿里町1833-81
電話: 042-661-0200
<http://www.ffpri.affrc.go.jp/tmk/>
e-mail: kouhotama@ffpri.affrc.go.jp

製作: 多摩森林科学園 島田 和則
勝木 俊雄
岩本宏二郎

発行: 2013年2月14日

樹木園観察ガイド

多摩地域で身近な樹木



多摩地域で身近な樹木

多摩地域は、東京都の本土部のうち、区部を除いた西側の地域です。府中を中心とした北多摩、青梅を中心とした西多摩、八王子を中心とした南多摩に分かれ、みられる植物の種類(植物相またはフロラといいます)がそれぞれ少しずつ異なります。



北多摩地域は、中世まではカヤ場と呼ばれたススキやオギを中心とした草原が多かったと考えられています。江戸時代中期の新田開発によって、カヤ場の一部は屋敷、畑、雑木林をセットとした短冊状の区割りが並んだ独特の景観に変えられました。これらの一部は、今でも埼玉県南部などに残っています。また、吉祥寺のように都市化された地域でも、街の構造に短冊状の区割りの名残がみられます。

西多摩地域は、標高2017mの雲取山を中心とした奥多摩の亜高山帯を含み、高山性や寒冷地に分布する植物も見られます。今はニホンジカの増加による食害が深刻で、対策が早急に求められます。

南多摩地域は、高尾山などの地が古くから研究者や植物愛好家に知られ、多くの調査、観察の記録が残っています。高尾山は標高わずか599mしかありませんが、信仰の対象だったため古くから保護されていました。また複雑な地形や斜面方位によるすみ分けなどによって、多くの植物が残っています。

このコースでは、多摩森林科学園内の第1、第2樹木園の中から、主に北多摩地域、南多摩地域で普通に見られる種類の樹木を選びました。

多摩の雑木林(そうきばやし)

多摩地域で身近にみられる代表的な林は雑木林で、国木田独歩など文学の世界でもしばしば登場します。雑木林とは、落葉広葉樹のコナラやクヌギを中心とした、人の手によって維持されてきた森林です。

昭和30年頃までは、薪や炭などの燃料として利用するために7年～30年の周期で、毎年決めた範囲全ての木を伐採(皆伐)し、再生していました。毎年場所を変えて順番に伐っていたので、草原のように明るい部分から、木が大きくなって薄暗くなった部分までいろんな年齢の部分からなるモザイク状の林になっていました。しかし、化石燃料の普及により、周期的な伐採が行われなくなっていきました。

また、毎年1回、冬に下草刈りと落ち葉かきをしていました(多摩地域では「くずはき」といいます)。しかし、化学肥料の普及により落ち葉は使われなくなりました。その結果下草刈りもされなくなり、放置された林が増えていきました。

植物の新しい分類体系

植物の分類体系は、科学の進展にともない時代によって変わってきました。市販されている図鑑でもっともよく使われているものは、1964年の新エングラの体系です。しかし、DNAの分析による分子系統学によって、新しい体系がつけられました。多摩森林科学園では、この新しい体系APG II (被子植物系統分類グループ)に基づいた表記を、看板や展示に順次反映させていきます。

例えば、次のように変わりました。

スギ、メタセコイア、セコイア	スギ科→ヒノキ科
エノキ	ニレ科→アサ科
オオモミジ、イロハモミジ	カエデ科→ムクロジ科
ヒサカキ	ツバキ科→モッコク科
ムラサキシキブ	クマツヅラ科→シソ科
ガマズミ	スイカズラ科→レンブクソウ科

樹木園内の解説板で使われているおもな植物用語 (五十音順)

核果(かくか)：ウメやモモなど内果皮(最も内側の果皮)が木質化して硬くなり(核)、その中に1つ種子をもつ果実。

極相林(きょくそうりん)：ある環境条件の下で、最終的に成立し持続すると考えられる林。

球果(きゅうか)：マツやスギにみられるマツカサ状の構造物。まつぼっくり。厳密には果実ではない。

堅果(けんか)：硬い果皮の中に1つだけ種子を含む果実。どんぐりはこのタイプの果実。

雌雄同株(しゅうどうしゅ)：一つの株に雄花と雌花が一緒に咲くこと。

雌雄別株(しゅうべっしゅ)：雄花だけが咲く株と雌花だけが咲く株とが別であること。雌雄異株(しゅういしゅ)ともいう。

樹冠(じゅかん)：一つの木の上部をおおっている枝葉の層。

照葉樹林(しょうようじゅりん)：東アジアの温暖な地域で見られる常緑広葉樹林で、光沢のある葉をもつ樹種が優占するのでこの名がある。

先駆性樹種(せんくせいじゅしゅ)：植生の成立・再生過程において、いち早く侵入する樹木。

耐陰性(たいいんせい)：薄暗い条件でも耐えて生育できる性質。

暖温帯(だんおんたい)：本州から九州までの低地に分布する、主に常緑広葉樹林が優占する気候帯。

中間温帯(ちゅうかんおんたい)：主に本州の内陸部に分布する、暖温帯と冷温帯の中間に位置づけられる気候帯。

二次林(にじりん)：伐採や山火事などの後、植栽や播種によらずに再生した林。

優占(ゆうせん)：ある森林で量的に最も多くの空間を占めること。

両性花(りょうせいけ)：雄しべと雌しべをともに持ち、かつどちらも退化せず機能している花。

冷温帯(れいおんたい)：北海道南部から九州の山地に分布する、主に落葉広葉樹林が優占する気候帯。

林冠(りんかん)：林全体の最上部をおおう枝葉の層。

林床(りんしょう)：森林内の地表付近(土だけでなく生育している植物も含む)。

多摩地域で 身近な樹木コース ガイドマップ

第2樹木園

クマシデ(花期:4月、果期:10月)
エノキ(花期:4月、果期:9月)
ミズキ(花期:5月、果期:6~10月)
イロハモミジ(花期:4~5月、果期:7~9月)
クヌギ(花期:4月、果期:10月)
スダジイ(花期:5~6月、果期:10月)
ツクバネガシ(花期:5月、果期:10月)
カラスザンショウ(花期:7~8月、果期:11~1月)
ホオノキ(花期:5月、果期:9~11月)
ヤマグワ(花期:4~5月、果期:6~7月)

サンショウ(花期:4~5月、果期:9~10月)
ウラジロガシ(花期:5月、果期:10月)
アラカシ(花期:4~5月、果期:10月)
ムラサキシキブ(花期:6~8月、果期:10~11月)
コナラ(花期:4月、果期:10月)
カキノキ(花期:5~6月、果期:10~11月)
ヤマブキ(花期:4~5月、果期:9月)
モミ(花期:4月、果期:10月)
ヤブツバキ(花期:2~3月、果期:10~11月)
シラカシ(花期:4~5月、果期:10月)
ヤマツツジ(花期:4~6月、果期:8~10月)

順路の順番に樹種名を並べています。
①~②①は標識柱、1~5は案内地図の番号です。

